

音楽って「聴く」だけのもの？「共遊楽器」WS 開催！

アートを軸に、障がいのある人もない人も、ともに楽しむ方法を共有し、ともにいることでみえてくる何かを探求するコモン・ラボ(共同研究室)。アートの分野で活躍している話題提供者を招き、様々なワークショップを重ねながら、ともにアートを楽しむ場づくりをめざしています。11月14日に開催された第1回は、「聞こえる人も、聞こえない人も『共に楽しむ』共遊楽器」ワークショップ。「人と人をつながりたい」との思いから、耳の不自由な人とも音楽を楽しめる「共遊楽器」を研究・制作している金箱淳一さんの話題提供、そして実際に共遊楽器を演奏・鑑賞した後は、グループごとに「共遊楽器」のアイデアを出し、粘土で模型を作りました。「聞こえない人でも楽しめる楽器ってどんなもの？」という参加者の大きな“？”は、4時間後、「なるほど！こうやって楽しむのか！」と、大きな“！”に変化。その変化の過程をともに楽しむひとときになりました。



共遊楽器の「音色」をスピーカーの振動で確認する参加者

身近にある「子どもの貧困」、私たちにできることは？



「何とかしなければという思いを共有できました」と阿部さん

11月28日、『子どもの貧困』著者・阿部彩さん講演会が開催されました。国内外の貧困や社会保障をテーマに研究活動を続けている阿部さんの基調講演では、「子どもの貧困」の背景は何か、なぜ問題なのか、課題解決に求められるものは何か、をデータを元に丁寧に解説していただき、さらに龍ヶ崎市の「NGO 未来の子どもネットワーク」代表のかさいひろこさんが、県南地域の子どもの貧困の具体的事例を紹介。私たちのごく身近な生活圏のなかでも、この問題が想像以上に大きく深刻な状況にあることがわかりました。話題提供のあとは、小グループで「では、私になにができる？」と問いなおしていく対話の時間となりました。当日、会場では、生活困窮者への食品寄附を受け付ける「きずなBOX」が設置され、さっそく36kgもの食品が集まり、「私たちができる、小さな一歩」を踏み出しました。

常総豪雨水害で被災された方々への支援活動を継続中

つくば市民大学では、昨年9月に発災した常総豪雨水害で被災された方々への支援活動を実施しております。9月から12月にかけては、RQ常総、筑波学院大学災害ボランティアセンター、つくば子ども劇場有志などと連携し、常総市各所で計28回の足湯を実施。また、Juntos通信配布、避難所環境整備等も含め、計37回のつぶやき収集を行い、ボランティア参加者はのべ160名以上に及びました。また、希望者を対象とした足湯講習会も実施。活動の様子は、11月19日のNHK総合テレビ「あさイチ」で紹介されました。さらに、つくば市内に一時的に滞在することになった方々を対象に、「物資提供」「戸別訪問」「交流カフェ開催」など、生活支援・復興支援を目的とした事業を引き続き実施しています。これに伴い、本プロジェクトの遂行に関する活動支援金への寄付を募っております。裏面をご参照の上、ご協力をお願いいたします。



まだまだ復興は道半ば。支援活動はこれからも続きます

つくば市民大学はこんな人たちがやっています！

～ 赤松洋子さん ～



つくば市民大学の発展・成長のために、定期的に会議を開き、熱心に活動方針を話しあい、講座企画・運営を先頭となって引っ張ってくれている 5 名の幹事のみなさん。普段はなかなかオモテに出ることはありませんが、「市民大学ってどんな人たちがやっているの？」という会員のみなさまの素朴な疑問にお応えして、ユニベルだより紙上で、幹事の方々のプロフィールをご紹介します。今回登場していただくのは、赤松洋子さんです。

●出身地：岡山県岡山市

●市民大学で企画した講座：

フューチャーセッション「地域×アート＝？」及び、実践編として調査編、養成編、「みんなのホールをつくろう」編／アートCOMMON・ラボ／お話をあそび 見た目でなりきる物語の登場人物

●活動プロフィール：

1987 年よりつくば市在住

1999 年つくば子ども劇場入会、その後、運営委員長、事務局長を経て、現在は Facebook など情報発信に努める

2000 年から 2003 年までアマチュア人形劇団主宰

2004 年 表現あそびグループあかまつで表現あそび、演劇ワークショップなどを開始

2012 年より文化政策研究に従事。専門は劇場法、文化ホール、アウトリーチ 日本演劇教育連盟、日本文化政策学会会員

2015 年よりつくば文化振興財団友の会サポーター会員

同年 常陽新聞コラム「演劇という窓からのぞく」で地域の文化芸術に関する話題を連載 <http://urx.mobi/qxFG>

=====

高校留学の受け入れボランティアの活動、つくば子ども劇場での市民活動団体の運営を経て、茨城 NPO センター・コモンズ、つくば市民大学と出会う。また、高校生の頃から演劇に携わり、つくばではアマチュア人形劇の活動を経て、2004 年から親子向けの表現あそび、読み聞かせボランティア・小学生・高校生などへの劇上演サポート、演劇的手法を用いた学生・一般向けのコミュニケーション講座など、参加者どうしが共に体験して学ぶ場を提供している。近年は、文化芸術を通じた社会的包摂(ともにある社会)を目指し、文化政策研究・実践に努める。

●個人的な目標：「活躍」とか、しないで、多少は暗躍する程度

●市民大学へヒトコト：市民大学の講座を受講してくださった方々と、「ともにつくる」講座企画ができれば、と思います。

常総豪雨水害で被災された方々への支援活動にぜひご協力を！

昨年 9 月の常総豪雨水害で被災された方々への生活支援・復興支援を目的とした事業を引き続き実施しております。(オモテ面参照)

【活動支援金へのご協力をお願いします】

本プロジェクトの遂行に関する活動支援金への寄付を募っております(被災された方に直接分配する義援金ではなく、本事業の実施にかかる諸経費に対する支援金です)。寄付金の使途については、ユニベルシタスつくばの事業報告で公開いたします。また、事業終了時に余剰金が生じた場合には、全額をいばらき未来基金の「juntos(一緒に)募金」に寄付し、引き続き常総地域の豪雨水害に関する NPO 等の活動に対する支援金として活用されるようにいたします。

【ご寄付の方法】

つくば市民大学窓口に設置の募金箱(火・木・土・日、13～18 時)、および郵便払込にて承ります。

郵便払込みの場合は、青色の払込取扱票をご利用ください(申し訳ございませんが、払込手数料はご負担いただきます)。

口座記号番号 00120-0-360976

口座名称 ユニベルシタスつくば

※通信欄に「JuMP 支援金」とご明記ください。

中長期的な支援を前提に、細く長い活動を続けてゆく所存です。

引き続きのご協力、よろしくお願いいたします。

代表幹事・徳田の「オススメの一冊」

ヘンリー・ミンツバーグ(著)

『私たちはどこまで資本主義に従うのか』

(2015 年 12 月・ダイヤモンド社)

熱い。冒頭から熱い。「私たちの民主主義を、私たちの地球を、そして私たち自身を破壊しつつあるアンバランスな状況は、もうたくさんだ」...

ミンツバーグは、カナダ生まれの世界的な経営学者。というより、経営学の巨匠とも言える存在だ。その彼が、「企業と政府だけでは社会の問題は解決できない」とペンを執ったのがこの書。ジャーナリストや社会活動家、政治学者や経済学者の著作であれば、それほど驚かないだろう。経営学からの発信というのが、実に興味深いところである。彼が目指すのは、財団や宗教団体、労働組合、協同組合、大学や病院、非政府組織(NGO)、さらにはさまざまな社会運動、社会事業等からなる「多元セクター」。これが政府セクター、民間セクターと対抗する第三の柱として力をつけることで社会のバランスを回復する必要がある、というのが主な主張だ。この提言自体は目新しいものではない。しかし、シャープな現状分析や「コミュニティシップ」という概念には、大いに読者を奮い立たせるものがある。(徳田)

スタッフよりヒトコト

今年は申年。十二支でいうと九番目の年にあたります。ちょっと調べたら、十二支とは、もともと農業用語で、農作物の成長の過程を 12 段階で表していたのだそう。さる年の「申」には、「伸ばす」という意味があるそうです。申年は「草木が十分に伸びきった時期で、実が成熟して香りと味がそなわり固く殻におおわれていく時期」。結実の年なんですね。2016 年・申年のつくば市民大学が、枝葉をすくすくと伸ばし、大きな実を結ぶ一年になりますように。(とこり)

つくば市民大学

〒305-0033 つくば市東新井 15-2 ろうきんビル 5 階

TEL: 029-828-8891 Fax: 029-828-8892

e-mail: info@tsukuba-cu.net Twitter: @tsukuba_cu

web サイト・Facebook: 「つくば市民大学」で検索